

7. 教育インターンシップ

3年次第3クォーターにおけるiOP（internship Off-campus Program）活動のためのプログラムとして、本年度はセンターにて「教育インターンシップ」を開設した。開放制教職課程（教育学部以外）の学生が、茨城県内の高等学校を中心とする学校現場で5日間以上のインターンシップを行う活動である。開放制教職課程では、4年次における教育実習の他に学校現場を体験する機会は設定しておらず、これまでは学校から要望・募集があった学校支援ボランティア活動に個人で応募・参加するしかなかった。特に教職志望度の強い学生から、教育実習以前の段階・時点において学校の教育活動の実際を直接見聞・体験する機会の提供を要望する声などもあり、それに応えるために設定したものである。

このプログラム実施に関する年間の流れをまとめると以下の通りである。

- ・6月12日（月） 第1回センター内打合せ（企画立案）
- ・7月12日（水） プログラム実施の学生向け告知
- ・7月19日（水） 学生向け説明会，申込み受付開始
- ・7月24日（月） 第2回センター内打合せ（今後の業務内容確認）
- ・ 同 茨城県高等学校校長会長との事前協議
- ・7月28日（金） 学生申込み期限
- ・8月1日（火） 茨城県高等学校校長会総務会にて，説明及び協力依頼
- ・8月2日（水） 茨城県内高等学校・中等教育学校へ，協力依頼発送
- ・8月18日（金） 第3回センター内打合せ（学生の実施希望，受入校等確認）
- ・～8月24日（木） 学生の体験先学校調整・予備交渉
- ・8月25日（金） 事前指導
- ・～9月4日（月） 各学生による学校との日程調整
- ・9月中旬～11月 各学生，各学校にてインターンシップ活動実施
- ・1月24日（水） 事後指導（活動報告会）

本年度、当プログラムにて活動を行った学生は6名（人文社会科学部3名，理学部2名，農学部1名）であった。各学生とも，1校のみではなく複数校で1～3日程度ずつ実施した。受入校は以下の10校であった。

《高等学校》

- ・水戸第二高等学校，水戸第三高等学校，水戸桜の牧高等学校，水戸南高等学校，水戸商業高等学校，水戸農業高等学校，水戸工業高等学校

《中学校》

- ・水戸第一高等学校附属中学校，水戸市立第五中学校，竜ヶ崎市立長山中学校

高等学校を中心に考えていたが，学生の希望に応じて中学校にも受入れを依頼し了承していただいた。また高等学校においては上述の通り普通高校だけでなくいわゆる実業高等

学校にも受け入れていただけたことは、学生がさまざまな学校現場の実態を知り、体験を通じて知見を深めていくうえで重要であった。

インターンシップ活動の実施中、学生は1日ごとに活動概要と当日の感想・反省等をレポートにまとめ、WEBシステムを通じてセンター宛に提出した。センター教員が内容を点検して活動状況を把握するとともに、必要に応じて助言等を行った。

1月24日（水）の事後指導では、各学生がインターンシップ活動の主な内容と活動を通して学んだこと等を報告、話し合いを行って、センター教員が講評のコメントを行った。

【学生の発表資料より】

目的

- ① 教育実習の前段階として、現場の様子を知る
- ② 「先生」でも、「その学校の生徒」でもない状況で学校に出入りできる貴重な経験を楽しむ
- ③ 今後すべきことを見つける

5日間の活動内容

・3日目

時間	実施事項
7:50-8:15	・準備
8:30-9:25	・講の挨拶活動（登校してきた生徒にあいさつした） ・特別支援教室の3年生数学の授業見学
9:35-10:25	・3年1組の理科の授業見学 原子の構造とイオン（陽イオン・陰イオン）の授業を見学
10:35-11:25	ステップアップルーム（学校に来られない生徒が登校してきたときに使う教室）での数学の授業の見学
11:35-12:35	・3年2組の理科の授業見学・補説 原子の構造とイオン（陽イオン・陰イオン）の授業の机間巡視を行った
12:35-13:30	・3年1組で給食を一皿に食べた ・意外に生徒とコミュニケーションをとった
13:35-14:25	・3年2組の平話の授業見学 インタネットと人権についての授業を見学した
	・3-2の朝の会を見学 ・卜校の生徒の見送り（昇降口前で生徒にあいさつした）

03. 活動を通しての成果と課題

成果	授業	授業以外
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業と成績管理 ・「読む力」「伝える力」を育む アクティブラーニング ・「探究」の“サポーター”としての教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教室環境 ・「特活」への取り組み ・生徒の「身近さ」を重視した教材研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に参加して… ・教員・生徒両方の立場から授業を見て、それぞれの授業形態の違いや生徒の反応などを把握できた。 ・何を取り入れると面白い授業ができるかを考えることができた。 ・学校現場でのICTの活用の現状を学ぶことができた。 ・先生方が普段、学校をどのように見て動いているのかを知ることができた。 ・生徒との関係性、信頼を築いていくことの重要性を学べた。

さらに学生は、開放制教職課程の2年次学生を対象に実施した「教育実習ガイダンス」においても、後輩に向けてこれらの成果を発表した。今回は実施初年度ということもあり先に述べたように参加した人数は決して多くはなかったが、この発表を受けて、教育実習に向けての手続き・準備を開始する現2年次の学生たちの中から、次年度はさらに多くの学生がこの活動に参加し、教職への志向と意欲を高めてくれることを期待している。